

生い立ち

子どものころ、私はアニメを見ることとバドミントンをするのが大好きでした。友だちといっしょに町の中を探けんするのも楽しみでした。友だちがバドミントンのやり方を教えてくれました。わたしたちは学校のあとや週末によくあそびました。スポーツはとても楽しくて、友だちといるといつもワクワクしました。家では、お母さんが料理のやり方を教えてくれました。それは私たちの大切な時間でした。

10 さいのとき、お母さんが急に亡くなりました。とてもかなしい時で、すべてが変わりました。お母さんがいなくなってから、私は家のことを一人でしなければなりませんでした。子どものころの大切な思い出の一つは、夏におじいちゃんとおばあちゃんの家で過ごしたことです。家のまわりにはきれいな庭があって、私は花や石をあつめるのが大好きでした。

もう一つの思い出は、公園でたくさん時間をすごしたことです。私はブランコにのることが大好きでした。その場所はしずかで、きれいなけしきがありました。

高校のとき、私は音楽が好きで、たくさんの友だちができました。たくさん問題があっても、一生けんめい勉強しました。友だちと山のぼりやキャンプに行きました。高校を卒業したとき、いろいろな大変なことがあったけれど、卒業できて本当にうれしかったです。

私は大学に入り、工学を勉強することにしました。1 年生のとき、家族のような友だちがたくさんできました。朝に勉強して、学校のあとにアルバイトをして、たいせつだけど大変なけいけんを学びました。2 年生のとき、大きな問題があって、しばらく大学をやめることにしました。でも、あきらめませんでした。家族や友だちが「いっしょにがんばろう」と言って、おうえんしてくれました。そのあと、友だちのアラビスさんが「ケンジミンで日本語を勉強しよう」ときそってくれました。私は、このチャンスを使って、もう一度夢をめざすことにしました。

ケンジミンで勉強をはじめたとき、日本語はとてもむずかしかったですが、私はあきらめませんでした。先ばいに勉強のアドバイスを聞きました。そして今、日本語の勉強が終わったなんて、まだしんじられない気持ちです。大変だったけれど、自分なりにがんばって乗り越えることができました。

私は友だち、先生、家族に本当にかんしゃしています。みんなが私をしんじて、ささえてくれました。そして、あきらめなかった自分にもありがとうと言いたいです。いつも応えんしてくれた友だちや大切な人たちにも、心からありがとうと言いたいです。

以上です。ありがとうございました。